St.Luke

The 2003 annual report

年報

2003.4.1
〜
2004.3.31

● 医療法人セント・ルカ ●

セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

目次

巻頭言 1

一年を振り返って

心理専門相談室 3

看護部 5

研究室・検査部 7

事務部 9

情報処理室 11

診療統計

外来・入院数 14

妊娠数 16

外来患者及び妊娠結果の内訳 18

初診後妊娠までの期間（グラフ） 20

腹腔鏡検査後妊娠までの期間（グラフ） 20

AIH （人工授精）による妊娠（グラフ） 21

ART （体外受精）による妊娠（グラフ） 21

ART による妊娠 22

ART による出産および出生児の状況 22

セント・ルカ産婦人科１年のあゆみ 23

行事一覧 24

論文一覧 34

著書（共著）一覧 36

院内活動

セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明 37

スタッフ配置 40

病院概要 41

巻頭言

宇津宮　隆史

不妊診療も最近ではかなり体制が整えられてきた。
胚培養士に対する資格認定、エンブリオロジスト養成講座や、生殖医療心理カウンセリング研究会、また、われわれ生殖医療機関における独自のガイドライン設定、施設レベルの一定以上の質の保証を目指す JISART（Japanese Institution for Standardizing Assisted Reproductive Technology）の活動、さらには不妊患者さんの自助グループ Fine（Fertility Information Network）の会、そして世界的な不妊カウンセリングの会 IICO(International Infertility Counseling Organization)の設立など、さらには不妊治療への助成金が下りるようになったことなどと、明るい話題が増えた・・・。 と、安心しているにはまだ早い。世間はそれほど甘いものではない。

私は以前、大分市の「母子保健委員会」のメンバーであった。その際、「不妊症の夫婦の割合はどれくらいかご存知ですか」と 30 数名の委員に聞いた。誰ひとり知らなかった。母子保健を担当している専門家の集まりである委員会ですらこの現実である。

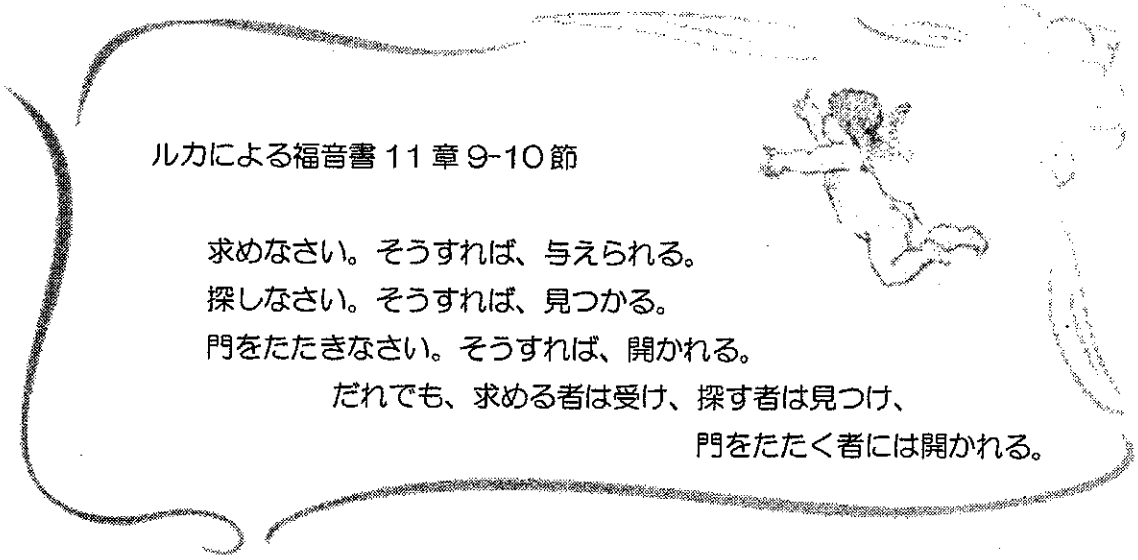
一昨年、私は生命倫理を考える会に呼ばれ、生殖医療と倫理的問題をお話したことがあった。メンバーは西日本の国立大学の倫理学や哲学、教育学の教授などである。最後のほうで倫理学の教授が「人間社会にはある一定の割合で異常が存在する。不妊症もその一つであろうから不妊症は治療する必要はなく、自然に任せてよいのではないか。」といわれた。
耳を疑った。国立大学の教授の言葉である。わたしは「それならあなたは癌にかかっても治療しないのですか」と反論した。不妊症は子宮内膜症や乏精子症など明らかな疾患を原因にした 2 次的疾患である。

今年の 3 月、読売新聞の「論点」に国立成育医療センターの総長の意見が載った。いわく、「今年から国は不妊医療に予算を割くとのこと、考え直してほしい。なぜなら、不妊治療で未熟児が増えて NICU が満杯である。不妊治療で生まれる子供は異常児が多い。また、不妊治療で生まれてきた子はその両親の不妊形質が遺伝し、20～30 年後に両親と同じ不妊に悩むことになる。」などなど、まったく医療従事者とは思えないナンセンスな意見であった。早速その日のうちに反論を書いて読売新聞、日本産婦人科学会、日本不妊学会、日本受精着床学会に送った。その結果、受精着床学会のみが反応し、学会の反論を厚生労働省と総長に送ってくださった。

昨年10月、日本受精着床学会が公開講座「不妊治療の保険適用を考える」を開催した。私はパネラーとして参加したがその際、「厚生労働省には不妊治療の保険適用に関する資料や要求など何も記録は残っていない、また、産婦人科の学会からの要求などはない。厚生労働省は不妊治療の保険適用なんてまったく考えていない。」と聞いた。
このようにわれわれ生殖医療に関与する人間には当然と思われ、何の疑問もない事柄でも、同じ医療分野とはいっても、違う領域の人にとってはそれが偉い役職についている人であってもまったく理解していないのである。ましてや一般の人たちにはむしろこれらの方々の意見のほうが身近に感じているであろう。

読売新聞の件に関してもこのような誤解に関してすぐに正しい意見を寄せなければならない。その点、日本産婦人科学会、日本不妊学会の対応は相手に、また世間に誤解を招き、誤ったメッセージを送ることになるであろう。それは生殖医療に従事しているものの義務を怠っているといっても過言ではなかろう。

われわれは世間に向かって不妊診療の現実と進むべき方向を広く訴えなければならない。
世の中はそんなに甘くはない。



一年を振り返って

心理専門相談室

この一年は、不妊治療における心理カウンセリングの重要性と役割りについて、日本でも真剣に検討し、取り組もうとする機運が高まり、形づくられた記念すべき一年となったのではないかと思われます。

昨年から動き出した「日本生殖医療心理カウンセリング研究会」が東邦大学教授久保春海先生を代表世話人として正式に発足し、2004 年 2 月に第一回の学術集会が開催されました。この集会では医療者と心理士の両者が不妊症患者さんの治療や心理について知識や意見の交換をし、心理カウンセリングの現状と今後のありかたについて真摯に向き合うことができました。患者さんの代表も参加してくださり、生の声を聞かせてくださったことも画期的なことでした。また、当初の予想よりはるかに多くの方に参加していただいたこともうれしい驚きでした。この集会では、当院の取り組みについて私もお話をさせていただきました。

日本では心理士が入っている施設が少ない(10 施設以内)上に、その中でもスタッフの連携が機能している施設は本当に少ないのが現状です。幸いなことに当院では院長先生のご理解の下、患者さんのサポートには何が必要か、どうすれば少しでも患者さんのお役に立つことができるかを第一に、看護師さん、受付スタッフなど病院全体が自分の職域にこだわらずに連携して取り組もうとする姿勢が確立してきていると言えると思います。

また、日本だけではなく、世界の生殖医療に於けるカウンセリングの現状とこれからの課題について学ぶ機会が得られたことも今年の大きな話題の一つでしょう。

3 月に当院の「ルカセミナー」に東邦大学教授久保春海先生、東京 HART クリニック平山史朗先生、イギリスから J. Boivin 先生をお招きして講演していただいたのを皮切りに、沖縄の「環太平洋不妊学会」では同先生方の他、多数の海外からの先生方による生殖医療における「心理・倫理的」側面からの講演を聴く機会を持たせていただきました。

不妊治療を患者が自分の人生においてどう位置づけるのか、ストレスが軽減すれば妊娠率は上がるのか、非配偶者間生殖医療についてなど様々な問題について各国の取り組みが語られました。日本以上にアジアの国々では心理的サポートは今からの課題であると思われました。

日本だけではなく世界的にも2004年は記念すべき年となりました。世界の不妊カウンセラーの組織IICOが発足し、5月にカナダのモントリオールで第一回大会が開催されました。日本からは 3 施設の心理士が参加しましたが、記念すべきこの大会に当院でも院長先生以下 4 名が参加させていただきました。イギリス、カナダ、アメリカ、オーストラリアなどでは生殖医療の現場に心理士が欠かせない存在として組み込まれています。その方たちのお話はとても参考にな

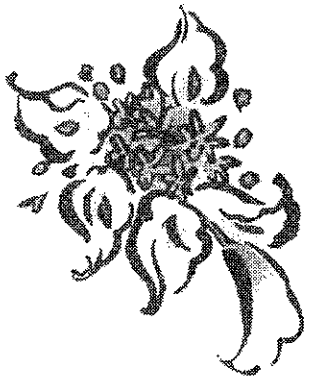
りました。今後の患者さんのサポートに活かしていきたいと思っています。

当院においては、心理相談室が設置されてから今年の3月で3年が経過しました。この間、多くの患者さん方の様々なストレスや悩みについてのお話をうかがいました。その内容は治療についてだけではなく、気持ちのコントロールやストレスマネージメント、周囲との関係、夫婦間の問題、自分の価値観や生きがいについてなど多岐に渡っており、そのことは不妊の問題がいかに人生の根幹に関わる問題であるかということの顕われであると考えられます。医療スタッフはそのことを念頭に置いて患者さんの治療やサポートに取り組む必要があると痛感しています。

今年はまた、ART 周期における患者さんのストレスとそれに関与する要因について質問紙調査を行いました。ストレスは患者さんの年齢や治療期間などの要因よりも周りの人に気を使う傾向の強さと最も相関が高いことが分かりました。

今後とも日々の実践や研究を重ねて一人でも多くの患者さんのお役に立てるよう励んでいく所存ですのでよろしくお願いします。

心理専門相談室　上野桂子



一年を振り返って

看護部

「ルカ新聞」は年 2 回、7月と 12 月に当院の職員 4 名の編集スタッフと院長の監修によって発行され、今年の7月で№9 となります。

表紙の一面は神秘溢れる海の中であったり、澄み切った山々や空、思わずその大地に立ち深く深呼吸をしたくなるような癒しの写真で飾られます。これらの写真は院長が休日に出かけた折、自分でシャッターを押したものです。

「ルカ新聞」の最後のページは、半年間分の当院の行事一覧が掲載されています。溢れんばかりにびっしりと埋められた行事一覧は半年の頑張りの結晶だと思えますし、学会発表の多さも目を見張ります。新聞を手にすると、当院の不妊治療に対しての思いの深さが感じられ、セント・ルカの職員として一日一日を大切にする事、目標を持って努力すること等が活字となって表れているようで、心が引き締まる思いがしてきます。

看護部主体の不妊患者さんへの心理的サポートは、開院 3 年目から動き始めていたものの、心理サポートは患者さんにとって満足してもらえるような状況ではなかったと思います。悩みや相談が増えるとともに医療スタッフ側の勉強不足や力の無さを感じていました。

3 年前の 4 月に、心理士の先生がスタッフの一員として参加した事は、看護部に大きな力を与えて下さり、この年に、40 歳を越えた患者の会「オリーブの会」を立ち上げる原動力となりました。オリーブの会は今春で 3 年が過ぎました。昨年(2003)の 10 月、第 48 回日本不妊学会で、半年間のグループのかかわりを「不妊治療で妊娠困難な40歳以上の心理ケアのあり方」という演題で発表させて頂くことができました。現在このグループは、患者同士がすっかり打ち解けて 2 ヵ月に 1 度の会を楽しみにしていますが、40 歳を越えた患者さんの会は、「治療の終結という、避けては通れない現実が目前である」という大きな問題を抱えています。この方々の心理サポートが、私達看護部の今年の最も重要なテーマのひとつです。この方々が、治療の終結から次の人生の第一歩を、よりよい形で踏み出すことのサポートが出来ないだろうかと思案にくれながら、今、看護部一丸となってサポート作りに懸命です。

また今年の 2 月に、第一回日本生殖医療心理カウンセリング研究会学術集会が東京で開催されました。講演された諸先生方も、不妊治療には専門の心理サポートが必須なのだと強調されました。患者さんや私達医療スタッフも待ちに待った心理サポートが形として始動し始めて本当にうれしく思います。

今年当院でも、ISO9001 の取得に向かって、病院全体での取り組みが始まりました。これは患者さんが安心して不妊治療を受けられるという病院の質を問うもので、取得できれば第三者からこの病院なら任せられるという「お墨付き」を頂くような価値あるものです。幸いに、看護部はここ一年で若手が成長しました。次の担い手を作る教育も先輩である私達の役目だと実感していますが、ISO 推進委員にも、学会発表にも若手が精力的に参加し目を輝かせて働いています。

次に社会的サポートです。昨年の 8 月に不妊治療に大分市より助成金が、遅れて県からも助成金を受けられる運びとなりました。また今年の4月から大分市の助成制度が変更され「連続する 2 年度」が「通算 2 年度」と若干、受給枠の広がりを見せています。まだまだです。次のステップである「全面保険適用」をめざして、今年の 9 月の国会請願に向ってスタッフ全員で動き始めました。

とにかく一人でも多くの人が妊娠できたらと思います。

一日一日の仕事を疎かにせずにプロとして、患者さんの思いが達成出来るように心理面でのサポートに努力しています。

看護部　指山　実千代

ルカによる福音書 12 章 27-28 節

野原の花がどのように育つかを考えてみなさい。
働きもせず紡ぎもしない。
しかし、言っておく。
栄華を極めたソロモンでさえ、
この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。
今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、
神はこのように装ってくださる。
まして、あなたがたにはなおさらのことである。

一年を振り返って

研究室・検査室

今年で、セントルカ産婦人科研究室は 12 年目になります。
今年一年も、患者さんにとってよりよい治療ができるよう、ラボスタッフ一同、技術の向上と研究に力を入れて取り組んできました。

昨年、Vitrification 凍結胚保存法の安全性について疑問を持ち、私たちが研究に取り組み、より安全な方法を目指して開発したストローを用いた前核期胚 Vitrification 法が、日本受精着床学会世界体外受精会議記念賞を受賞しました。この方法より、患者さんへの感染の危険が全くない凍結法を確立することが出来るようになりました。

また 2 年前、「なぜ受精卵ができないのだろうか？」この疑問から、非受精卵に対する研究が始まりました。媒精後、前核が確認できない非受精卵の人為的活性化処理を行うことによってそのうちの 59%の受精卵が得られるようになってきました。ここで、さらに新たな疑問がわきました。「人為的活性化処理をしても活性化されない非受精卵の原因は何なのだろう？」この疑問により、抗 α Tublin・DAPI 染色による活性化されなかった卵の解析を行ってきました。その結果、原因は卵子因子 33%、精子因子 5%、卵子・精子相互因子 51%、不明 13%(DNA 損傷など？)であり、卵由来の阻害因子を多く持つ可能性が高いという結果でした。
この 2 年間にわたる研究の成果がみのり、本年の哺乳動物卵子学会の臨床部門で学術奨励賞を受賞しました。

昨年より、患者さんへの注射・費用の負担軽減、OHSS (ovarian hyper stimulation syndrome) 予防の目的で IVM (in vitro maturation) の研究を開始しました。広島大学大学院生物圏科学研究科の島田昌之先生と醍醐渡辺クリニックの森崇英先生からご指導をいただきながら、腹腔鏡時に卵子を採取し、体外成熟培養後、胚盤胞期に達すれば凍結しています。まだまだ改良点は多数あり、更なる研究が必要だと思われますが、良好な手ごたえを感じつつあります。今後、良好な結果を得て、臨床応用につなげたいと研究に励んでいます。
この研究は、今年の日本受精着床学会学術講演会で世界体外受精会議記念賞候補にノミネートされました。

妊娠困難な体外受精反復不成功症例に対する新しい試みとして、何かうつ手はないかと精巣上体精子による RESA (retrograde epididymal sperm aspiration) -ICSI (intracytoplasmic sperm injection) を行っています。射出精子での conventional-IVF・ICSI を行い、良好胚を移植したにも関わらず、妊娠にいたらなかった症例は、精巣で作られ長い経路を経て射出される過程で質が低下することが考えられ、射出する前の精巣上体にあるまだ若い？？精子を使用し、妊娠成功へつなげないかと考えて行っています。まだ症例数が少ないため、はっきりしたこ

とはいえませんが、RESA-ICSI を行った胚の質は、射出精液を用いた周期よりわずかですが、よい傾向が見られました。症例数が少ないため、まだ妊娠率に差はないのですが、症例数の増加に伴い、何か解明できるのではと期待しているところです。

研究室では、胚移植のときに患者さんに対し今回の体外受精の成績を説明しています。それ以外にも、希望される患者さんには、胚・精子・卵子に関する説明を行っています。患者さんとお話するときに、過去の体外受精での反復流産を気にして次の体外受精に前向きになれなかったり、患者さん本人の染色体異常により、流産の危険性を持ちながらも不安を抱えて体外受精に望む姿を、何度か見かけることがありました。現実にこういった患者さんを目の前にすると、少しでも不安を取り除き健康な赤ちゃんを授かっていただくために着床前診断の必要性を痛切に感じます。

このような研究や新しいメディウムの開発により、毎年少しずつではありますが、妊娠率が向上してきています。私たちの研究の成果が実り、とてもうれしく思います。しかし、妊娠率は向上しているにもかかわらず、流産は毎年、約 20%と変わらずにきています。流産・着床のことにももっと力をいれて、勉強しなければいけないと痛切に感じました。

今年、セント・ルカは、12 年目を迎え、ISO 取得へ向けて、スタッフ一同、力を合わせて取り組んでいます。マニュアルの作成からはじめていますが、今まで気づかなかった不便さを見直し改良することができました。ISO9001 の取得により、ラボ環境の向上、技術の一定化、妊娠率の向上を目指し、他部署とともに病院全体の質を高めあっていき、患者さんにとってより有意義な治療が得られるようがんばりたいと思います。

検査室　長木　美幸

一年を振り返って

事務部

一昨年を振り返って…

昨年一番嬉しかった事は待合室の掲示板に、大分県と大分市に不妊治療の助成金が出ます！！と貼り出せた時です。思わず万歳！この日の為に院長先生と私達がどんなに頑張って来た事か。そして、患者さん達がこの日をどんなに待っていた事か。私共、セント・ルカの職員としても大変な喜びの日でした。

受付で会計業務に携わっておりますと、沢山の患者さんの生の声に触れる事が出来ます。

赤ちゃんが欲しい！！その願いは誰しも同じです。しかし不妊治療には保険が殆んど適用されません。皆さん何とか家計をやりくりしながら治療費を工面されます。治療の大変さに加え、経済面の心配も重なります。一番悔しい事は「お金が無いので治療を断念します」と、患者さんが言われて来院されなくなる時です。

このような声を背景に、院長先生の保険適用に向けての頑張りは相当なものでした。日本全国で生殖補助医療を行う医療施設が約 620 施設あります。一人一人の患者さんの小さな…、しかし切実な叫びをまとめ、片田舎の病院がその全施設に、これまで何度も何度も不妊治療の保険適用に対する理解とお願いを文章にして呼び掛けをしてきたのです。署名運動もずっと続けています。その結果、今までに二度の国会請願を成し遂げました。そしてやっと 2003 年 8 月 1 日より、自治体による助成金が出る事になったのです。

昨年当院では 228 名の方が助成金の申請をされました。大分県で申請をされた方 125 名、大分市で申請をされた方 103 名でした。とても残念だったのが、周囲の理解が欠けるために、『不妊治療をしている事を知られたくない』と助成金の申請をされない方が、知り得ただけでも9名もいたことです。経済面の問題に加え、不妊に対する根強い誤った偏見もまた、大きな問題である事を感じずにはいられません。これもまた、これから当院が取り組んでいかなくてはならない問題であるかもしれません。

しかし、助成金を申請された方達からは、「赤ちゃんを授かるチャンスが広がりました」「助かりました」「もう一度だけ頑張ってみる事にしました。」と嬉しいお言葉を頂いています。この言葉が、私共スタッフにとっての次の第一歩となることでしょう。

患者さんが抱える問題が少しでも減るようにと、院長先生は不妊治療が保険適用になるように、次の国会請願に向けて今も走り続けています。私共職員も、待合室の掲示板に「保険適用」の掲示が貼られるその日を夢みています。どうか皆さんも署名運動を応援して下さい。

次に受付で昨年嬉しかったことは、新しく変わった会計システムが患者さん方にとても好評な事です。「内容が解かりやすくなりました」「治療費の計画が立てやすくなりました」等の嬉し

いお声を頂いています。

今回の会計システムは、セント・ルカ独自のシステムを作りましたので、軌道に乗せるのに随分と患者さん方にはご迷惑をお掛けいたしました。その間、様々なお声を寄せていただいた事に、会計システムを取り扱うスタッフといたしましては、大変感謝しております。ただ残念な事は今の段階ではレシートが感熱紙の為、保管に注意が要ることです。これも患者さん方の声により気づく事が出来ました。

今後も患者さん方の希望に答えられるように努力すると共に、
常に患者さんの声に耳を傾ける受付でありたいと思います。

事務部　渡邉佳代

マタイによる福音書９章１７節

新しいぶどう酒を古い革袋に入れる者はいない。
そんなことをすれば、革袋は破れ、
ぶどう酒は流れ出て、革袋もだめになる。
新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。
そうすれば、両方とも長もちする。

一年を振り返って

情報処理室

また年報作成の時期が巡ってきました。

私にとって2003年度年報は入職以来5冊目の年報です。

年報作成の時期になると、Sarah Base を使用して、この一年間に各部署で入力された大量のデータを抽出、入力ミスが無いかどうかのチェック及び集計を 1 ヶ月かけて行います。入力作業のほとんどは人間が行っている作業ですから、**"100%入力ミスはあり得る"**ということを前提に、**"全てのデータを疑う"**ことから私たちの作業は始まります。入力ミスを見つけたら、それを一覧にして各部署に渡し、各部署で入力修正をしてもらい、同じ入力ミスが発生しないように、入力方法を間違えて覚えている職員に対し、再度入力に対する説明を部署内で行ってもらいます。この小さな小さな地道な作業の積み重ねにより、より信頼度の高い正直で正確な年報が出来上がると私たちは考えているのです。

例年、年報作成に関るデータチェックは情報処理室スタッフ全員で行うのですが、今年の年報作成の時期は各学会の地方部会で発表するビデオ編集の時期と重なり、入職 4 年目の佐藤が 4 月に入職したばかりの新人平松への指導をしつつ、ISO9001 取得を視野に入れ、年報作成マニュアルを同時に作成しながら頑張って完成させました。この年報はセント・ルカ産婦人科の一年間の歴史を刻んだ本であり、私たち情報処理スタッフのこの 1 年の集大成でもあります。

情報処理室の仕事といえば、不妊診療の保険適用に向けての署名活動及び国会請願に対する事務局的な仕事も大きな仕事といえます。今年の春には、以前行ったアンケートで保険適用に向けての活動に反対の返事があった施設を除く、日本産婦人科学会への生殖補助医療登録施設585施設、衆議院議員478名、参議院議員246名に保険適用に向けて署名活動協力及び国会請願協力のお願いを発送し、2004年6月現在、国会誓願に向け19都道府県28名の代議士先生のご協力、36都道府県93施設の署名協力を得られています。秋の臨時国会での国会請願に向けて更なる活動を推進し、いつの日か、収入の少ない若い世代の患者さんも、回数を重ねなくては赤ちゃんを授かることのできない患者さんも、高額な支払いを気にすることなく、医療を受けたいと思う全ての患者さんが、平等に医療が受けられるような社会になることを願って、保険適用になるまで根気よく継続して頑張っていきたいと思います。

今回の年報作成を最後の仕事に佐藤が結婚退職し、3 人という少数精鋭部署である情報処理室も 8 月から2人体制で動くことになります。情報処理室での佐藤の仕事は、保険適用に向けての署名運動や国会請願に向けての活動の事務局的な仕事、昨年のセント・ルカセミナーに於いては、Dr. Jacky Boivin との英語でのメールのやりとりや当日のお世話係り、Pacific Rim での送迎時や懇親会などでも Dr. Jacky Boivin が退屈しないように、たくさんのおしゃべりを英語で一生懸命に行っておりました。

当院では、院長先生と奥様のご配慮で、毎週水曜日の夜に、ネイティブスピーカーの方をお迎えして英語の授業を行っており、これに欠かさず参加していた佐藤にとって、使用言語が英語であった Pacific Rim への参加は、大きな自信に繋がり、英語力も随分と上がったことと思います。新 Sarah Base の再構築に対しても業者との折衝を地道に行いその結果、素晴らしいソフトに仕上がりました。

彼女にとって当院で働くことのできたこの 4 年間は、とても厳しい日々であり、忙しい勉強の毎日だったかもしれませんが、他の職場で経験できないくらい素晴らしく充実し、成長できた貴重な 4 年間であったと思います。

女性スタッフばかりの職場ですから、若い人材が入職すれば、いつかその職員が結婚退職するかもしれないということを前提に考えなくてはなりません。ですから、それまでの貴重な時間を一緒に共有させてもらい、十二分に動き、働き、考えることのできる時期として、今まで以上に楽しく仕事をしていけたらと思います。

2人体制にはなりますが、平松の新しい感性と Power に期待して、佐藤が抜けた大きな大きな穴を二人で一致団結して埋めるべく頑張っていこうと思います。

当院で経験を積み巣立って行った全てのスタッフの上に、入職以来、厳しい先輩にしごかれながら、慣れない仕事に一生懸命立ち向かって頑張った佐藤さんに大きな幸せが舞い降りることを願ってやみません。

この場をお借りして大きなエールを送りたいと思います。

この一年もまた、セント・ルカ産婦人科で貴重な体験や経験、そして新しい技術の習得をさせていただいた事を心から感謝しています。

情報処理室　工藤由香

診　療　統　計

外来・入院数 (2003.4.1～2004.3.31)

	入　　院	外　　来
4月	121	1,814
5月	123	1,837
6月	122	1,642
7月	103	1,630
8月	134	1,773
9月	136	1,767
10月	123	1,712
11月	132	1,645
12月	104	1,620
1月	107	1,498
2月	128	1,691
3月	117	1,711
合計	1,450	20,340

入院数　(2003.4.1～2004.3.31)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
手術入院													
腹腔鏡手術	14	15	15	10	18	17	16	14	11	14	21	14	179
子宮内容除去術(流産のため)	2	5	4	1		5	2	4	6	3	5	5	42
子宮筋腫核出術	2	2	2	2		1	2	2	4	3	2	2	24
卵胞穿刺術	3	3				1		2	1				10
経頸管子宮筋腫切除術(TCR)					2	1	1	1		1			6
子宮内膜掻爬術		1				1							2
腹腔鏡下子宮外妊娠手術	1				1				2	1	1	1	7
開腹手術(子宮全摘出術)				1	1			1					3
卵巣腫瘍核出術		1											1
開腹手術(双角子宮形成術)													0
減胎手術	1												1
合　計	23	27	21	14	22	26	21	24	24	22	29	22	275
安静入院													
卵巣過剰刺激症候群	4	3	1		1	2	2			1	4	3	21
切迫流産安静	3	4	1		3	2	3		1	1			18
その他			1			3	3	1				1	9
合　計	7	7	3	0	4	7	8	1	1	2	4	4	48
体外受精入院													
採卵	43	51	46	49	53	48	49	53	30	38	46	43	549
胚移植	30	29	42	23	41	36	32	33	23	31	35	34	389
凍結胚移植	18	9	10	17	14	19	13	21	26	14	14	14	189
GIFT, ZIFT, TET	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	91	89	98	89	108	103	94	107	79	83	95	91	1,127
入院総計	121	123	122	103	134	136	123	132	104	107	128	117	1,450

妊娠数 (1992.6.3～2004.3.31)

	周期	1992～1993	1993～1994	1994～1995	1995～1996	1996～1997	1997～1998	1998～1999
体外受精 胚移植	採卵	104	235	270	259	300	328	285
	移植	75	174	209	219	263	268	239
	妊娠	6 (8.0 %)	30 (17.2 %)	60 (28.7 %)	54 (24.7 %)	56 (21.3 %)	55 (20.5 %)	56 (23.4 %)
顕微授精 胚移植	採卵	0	66	197	235	249	222	271
	移植	0	43	154	208	236	185	231
	妊娠	0 (0.0 %)	4 (9.3 %)	19 (12.3 %)	38 (18.3 %)	35 (14.8 %)	34 (18.4 %)	33 (14.3 %)
凍結融解胚 胚移植 (ICSI後凍結含む)	凍結融解周期	2	4	8	27	56	92	148
	移植	2	4	8	26	56	90	144
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (12.5 %)	0 (0.0 %)	9 (16.1 %)	15 (16.7 %)	34 (23.6 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	13	43	27	12	10	15	14
	移植	12	42	27	12	10	15	14
	妊娠	2 (16.7 %)	12 (28.6 %)	8 (29.6 %)	4 (33.3 %)	3 (30.0 %)	5 (33.3 %)	1 (7.1 %)
接合子 卵管内移植	採卵	0	0	0	8	8	1	12
	移植	0	0	0	8	8	1	12
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (12.5 %)	1 (12.5 %)	0 (0.0 %)	2 (16.7 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	8	4	7	2	2	0
	移植	0	7	4	6	2	2	0
	妊娠	0 (0.0 %)	1 (14.3 %)	1 (25.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
顕微授精胚 卵管内移植	採卵	0	1	4	5	0	4	2
	移植	0	1	4	5	0	4	2
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (25.0 %)	2 (40.0 %)	0 (0.0 %)	1 (25.0 %)	1 (50.0 %)
凍結融解 卵管内移植	凍結融解周期	0	0	0	0	0	2	1
	移植	0	0	0	0	0	2	1
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (50.0 %)	0 (0.0 %)
小計	採卵	117	353	502	526	569	572	584
	凍結融解周期	2	4	8	27	56	94	149
	移植	89	271	406	484	575	567	643
	妊娠	8 (9.0 %)	47 (17.3 %)	90 (22.2 %)	99 (20.5 %)	104 (18.1 %)	111 (19.6 %)	127 (19.8 %)

ART以外の妊娠数	130	226	211	235	196	177	178
妊娠総数	138	273	301	334	300	288	305

妊娠数　(1992.6.3～2004.3.31)

	周期	1999～2000	2000～2001	2001～2002	2002～2003	2003～2004	合計
体外受精 胚移植	採卵	220	142	124	178	124	2,569
	移植	184	116	93	129	89	2,058
	妊娠	48 (26.1 %)	44 (37.9 %)	33 (35.5 %)	48 (37.2 %)	34 (38.2 %)	524 (25.5 %)
顕微受精 胚移植	採卵	356	325	377	347	425	3,070
	移植	283	242	272	219	300	2,373
	妊娠	36 (12.7 %)	55 (22.7 %)	59 (21.7 %)	51 (23.3 %)	72 (24.0 %)	436 (18.4 %)
凍結融解胚 胚移植 (ICSI後凍結含む)	凍結融解周期	101	184	201	258	233	1,314
	移植	88	162	137	174	188	1,079
	妊娠	22 (25.0 %)	40 (24.7 %)	46 (33.6 %)	45 (25.9 %)	40 (21.3 %)	252 (23.4 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	11	4	1	2	0	152
	移植	11	4	1	2	0	150
	妊娠	2 (18.2 %)	1 (25.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	38 (25.3 %)
接合子 卵管内移植	採卵	4	10	0	0	0	43
	移植	4	10	0	0	0	43
	妊娠	1 (25.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	5 (11.6 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	0	23
	移植	0	0	0	0	0	21
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	2 (9.5 %)
顕微受精胚 卵管内移植	採卵	0	1	0	0	0	17
	移植	0	1	0	0	0	17
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	5 (29.4 %)
凍結融解 卵管内移植	凍結融解周期	0	0	0	0	0	3
	移植	0	0	0	0	0	3
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (33.3 %)
小計	採卵	591	482	502	527	549	5,874
	凍結融解周期	101	184	201	258	233	1,317
	移植	570	535	503	524	577	5,744
	妊娠	109 (19.1 %)	140 (26.2 %)	138 (27.4 %)	144 (27.5 %)	146 (25.3 %)	1263 (22.0 %)

ART以外の妊娠数	161	165	171	161	160	2,171
妊娠総数	270	305	309	305	306	3,434

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます。

外来患者及び妊娠結果の内訳　(2004.3.31 現在)

1.当院の患者数

1) 開院 (1992.6.3) ～本年 (2004.3.31) までの外来患者数
12,327 人
(内訳) 男性　3,696 人 (30.0%) (平均年齢 33.1 才)
正常 1,514 人 (41.0%)　異常 2,182 人 (59.0%)
女性　8,631 人 (70.0%) (平均年齢 30.7 才)
・挙児希望の女性 6,219 人 (72.1%) (平均年齢 30.7±4.4 才)
・妊娠件数 3,434 件 (平均年齢 31.2±4.1 才)
・妊娠に至らなかった女性　3,223 人

2) 妊娠率(患者あたり)　48.2% {(6,219-3,223)/6,219}

3) 治療を途中で諦めた女性　2,971 人 (47.8%)
a) 諦めざるをえなかった人(無精子症,早発閉経,高齢など)　567 人(9.1%)
b) いつの間にか諦めた人　2,404 人(38.7%)

4) 実妊娠率(a を除く患者あたり)　78.5% {(6,219-3,223)/ 6,219-(2,971-567)}

5) 実妊娠率(a,b を除く患者あたり)　92.2% {(6,219-3,223)/ (6,219-2,971)}

2.妊娠の内訳

他院へ紹介済	2,536 例	(73.85%)
流産	703 例	(20.47%)
子宮外妊娠	98 例	(2.85%)
胞状奇胎	14 例	(0.41%)
中絶	1 例	(0.03%)
不明	82 例	(2.39%)
計	3,434 例	(100%)

3.出産結果 (他院へ紹介済の 2,536 例中、妊娠結果が判明している 2,290 例について)

1)妊娠結果

満期産	1,965 例	(85.81%)
満期産＋死産*	2 例	(0.09%)
満期産＋外妊*	1 例	(0.04%)
満期産＋流産*	1 例	(0.04%)
早産	253 例	(11.05%)
早産＋死産*	7 例	(0.31%)
過期産	13 例	(0.57%)
死産	23 例	(1.01%)
流産	20 例	(0.87%)
流産＋死産*	1 例	(0.04%)
奇形中絶	3 例	(0.13%)
人工妊娠中絶	1 例	(0.04%)
計	2,290 例	(100%)

＊双胎で 2 児の妊娠結果が異なる例

2) 多胎妊娠について

単胎	2,031 例	(88.7%)	2,031 児
双胎	243 例	(10.6%)	486 児
品胎	16 例	(0.7%)	48 児
計	2,290 例	(100%)	2,565 児

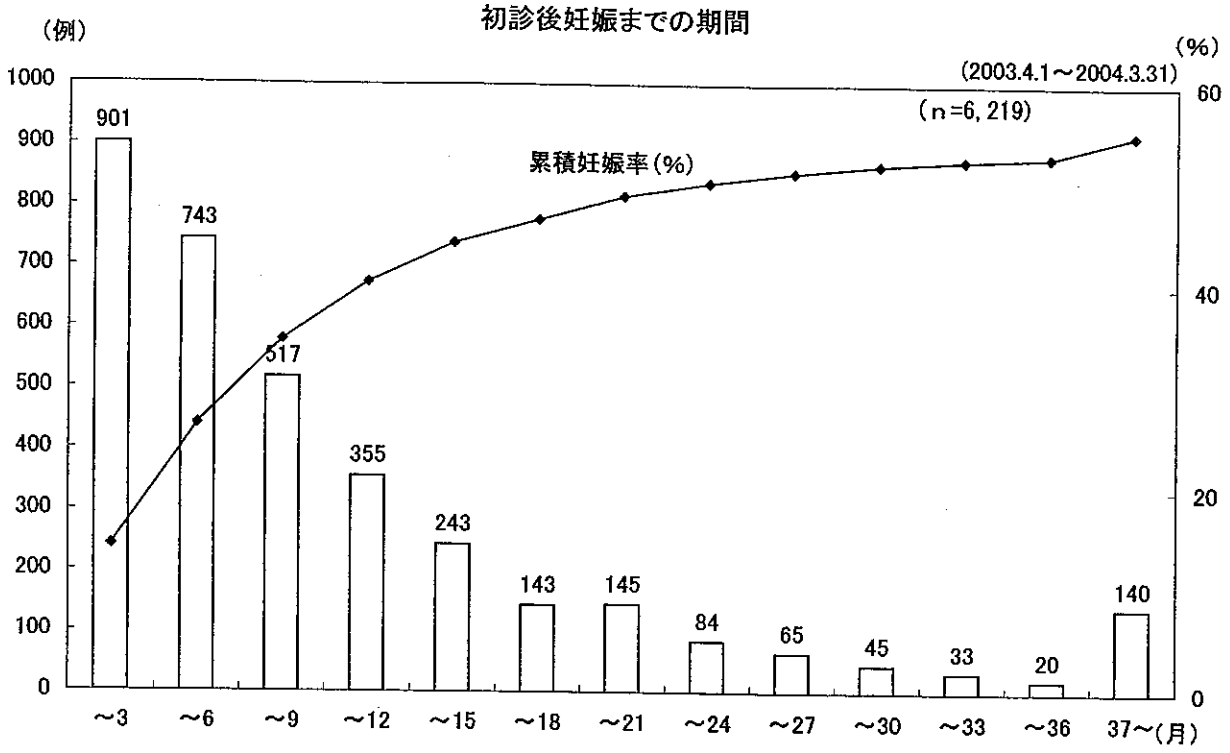
3) 出生児の状態

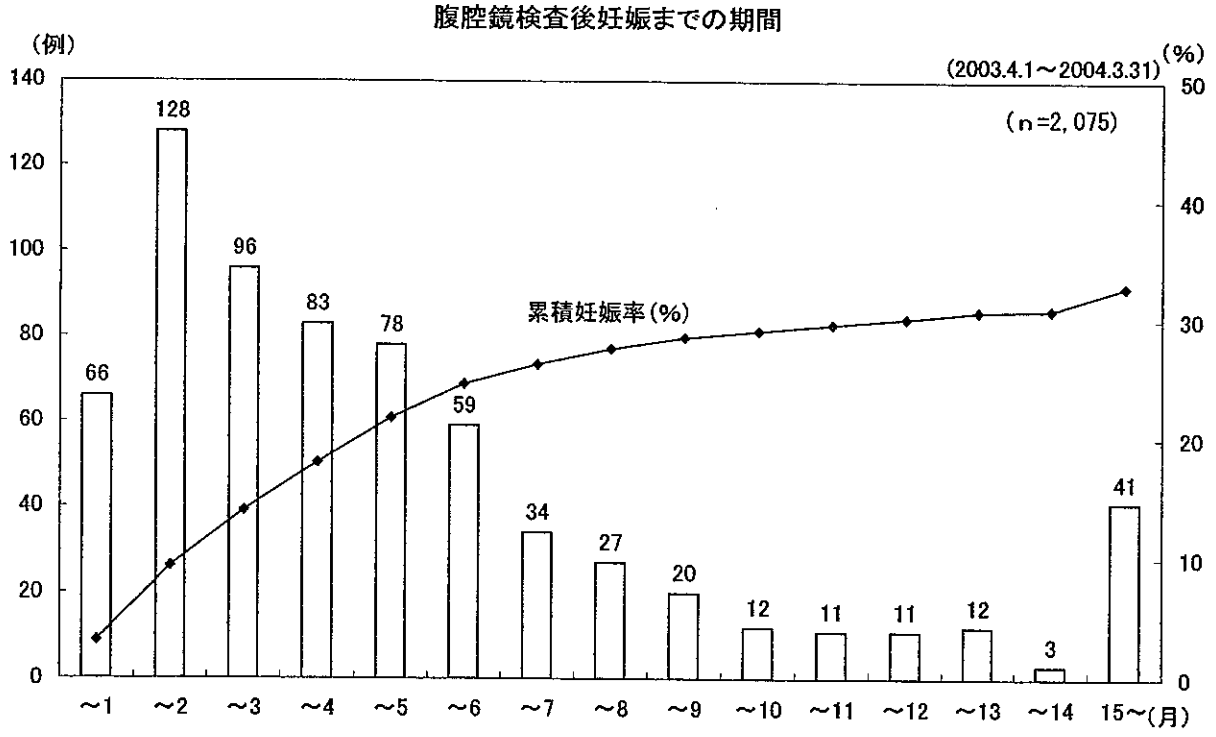
正常	1,908 児	(74.4%)
低体重児	475 児	(18.5%)
異常(IUGR 等含む)	182 児	(7.1%)
(うち奇形を含む主な異常)	(71 児)	(2.8%)
計	2,565 児	(100%)

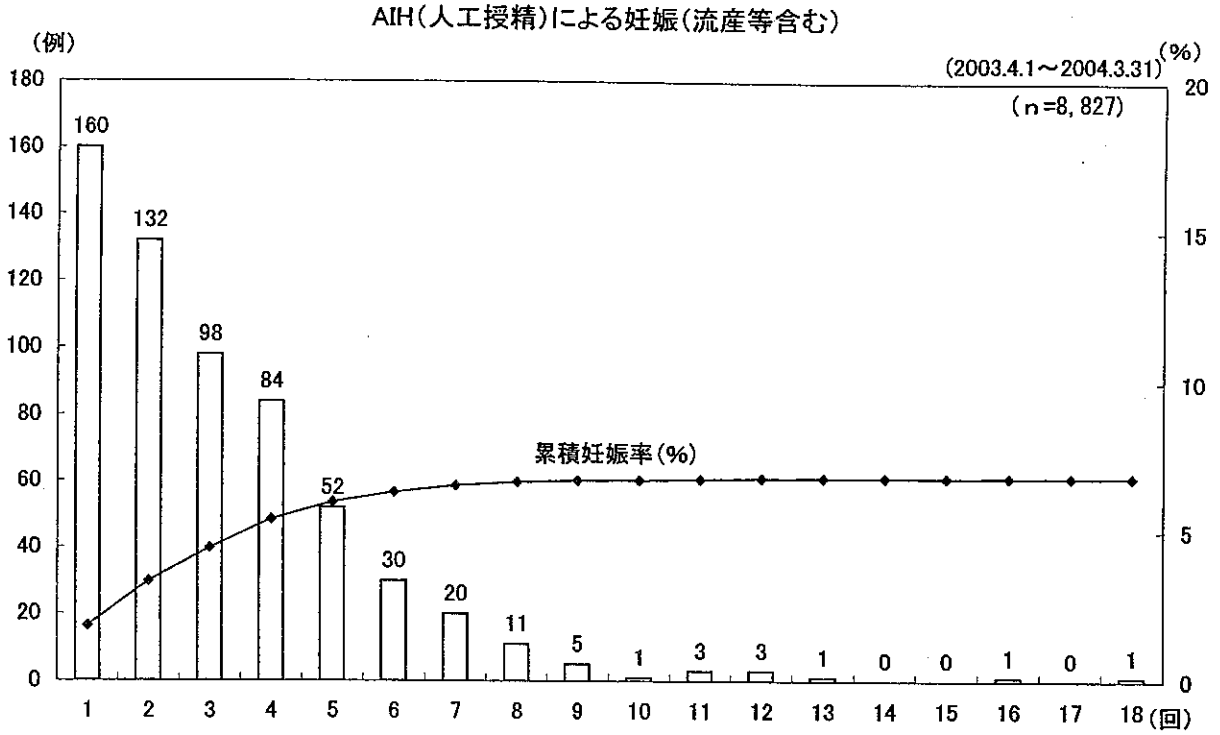
4. 妊娠に至った主たる有効治療

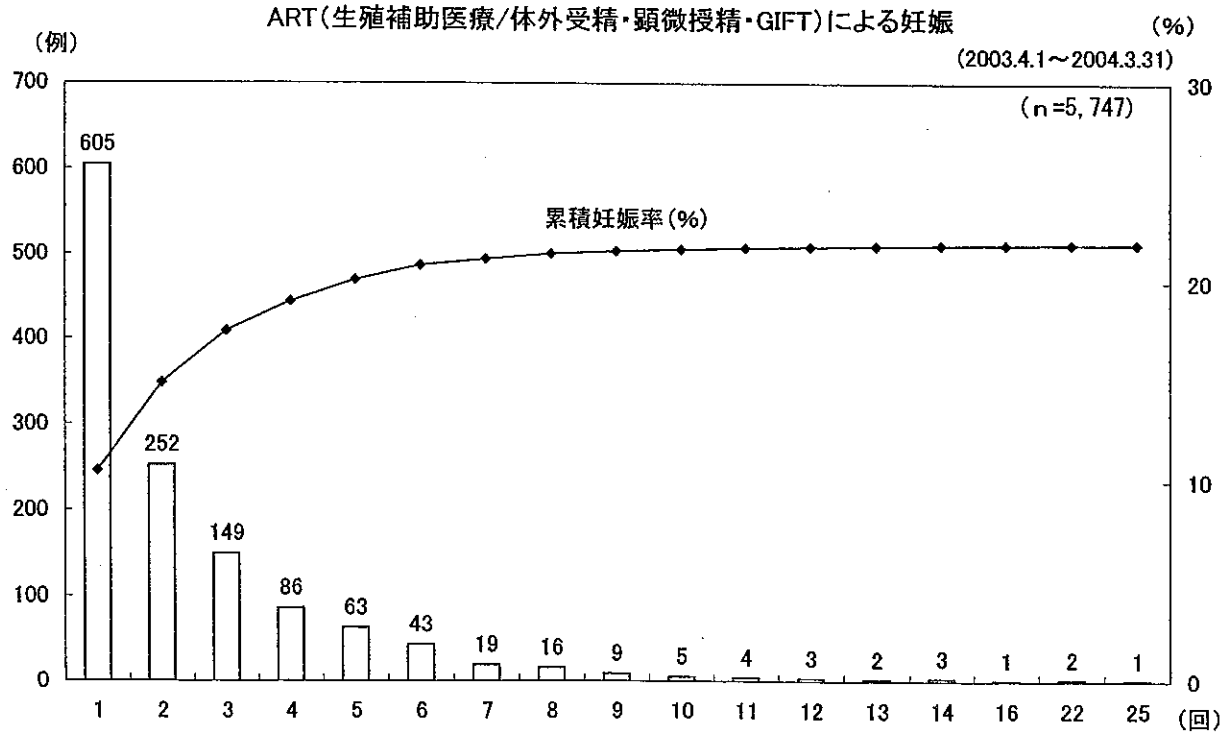
ART(生殖補助医療)全体	1,263 例	(36.78%)	
IVF-ET (体外受精)		526 例	(15.32%)
MF-ET (顕微授精)		441 例	(12.84%)
CRYO-ET(凍結胚移植)		253 例	(7.37%)
GIFT(配偶子卵管内移植法)		38 例	(1.11%)
ZIFT(接合子卵管内移植法)		5 例	(0.14%)
ART 以外	2,171 例	(63.22%)	
AIH(人工授精)		602 例	(17.53%)
HMG-HCG		352 例	(10.25%)
HMG-ブセレキュア		2 例	(0.06%)
クロミフェン		308 例	(8.97%)
クロミフェン-HMG		2 例	(0.06%)
タイミング指導		229 例	(6.67%)
ヒューナーテスト時		200 例	(5.82%)
HSG 直後		175 例	(5.10%)
腹腔鏡検査後自然妊娠		175 例	(5.10%)
リンパ球免疫療法		15 例	(0.43%)
その他		111 例	(3.23%)
計		3,434 例	(100%)

(2004/3/31　　セント・ルカ産婦人科)


初診後妊娠までの期間
(例)
(%)
(2003.4.1～2004.3.31)
(n=6,219)
累積妊娠率(%)
901
743
517
355
243
143
145
84
65
45
33
20
140
~3
~6
~9
~12
~15
~18
~21
~24
~27
~30
~33
~36
37~(月)


腹腔鏡検査後妊娠までの期間
(例)
(%)
(2003.4.1～2004.3.31)
(n=2,075)
累積妊娠率(%)
66
128
96
83
78
59
34
27
20
12
11
11
12
3
41
~1
~2
~3
~4
~5
~6
~7
~8
~9
~10
~11
~12
~13
~14
15~(月)


AIH(人工授精)による妊娠(流産等含む)
(例)
(%)
(2003.4.1～2004.3.31)
(n=8,827)
累積妊娠率(%)
160
132
98
84
52
30
20
11
5
1
3
3
1
0
0
1
0
1
(回)


ART(生殖補助医療/体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠
(例)
(%)
(2003.4.1～2004.3.31)
(n=5,747)
累積妊娠率(%)
605
252
149
86
63
43
19
16
9
5
4
3
2
3
1
2
1
(回)

ARTによる妊娠 (1992.6.3～2004.3.31)

	採卵周期数	胚移植周期数 (採卵あたり%)	妊娠周期数 (移植あたり%)	流産周期数 (妊娠あたり%)
IVF-ET	2,592	2,079 (80.2 %)	526 (25.3 %)	132 (25.1 %)
MF-ET	3,087	2,390 (77.4 %)	441 (18.5 %)	138 (31.3 %)
(ICSI)	2,804	2,292 (81.7 %)	430 (18.8 %)	133 (30.9 %)
GIFT	152	150 (98.7 %)	38 (25.3 %)	13 (34.2 %)
ZIFT	43	43 (100 %)	5 (11.6 %)	1 (20.0 %)
CRYO-ET	1,317	1,082 (82.2 %)	253 (23.4 %)	62 (24.5 %)
ART. total	7,191	5,744 (79.9 %)	1,263 (22.0 %)	346 (27.4 %)

ARTによる出産および出生児の状況 (1992.6.3～2004.3.31)

出産周期	783周期		妊娠結果が判明している783周期に限る		
妊娠結果	満期産	595周期 (75.99%)		過期産	3 周期(0.38%)
	満期産、外妊	1周期 (0.13%)		死産	11 周期(1.40%)
	満期産、死産	2周期 (0.26%)		流産	11 周期(1.40%)
	満期産、流産	1周期 (0.13%)		流産、死産	1 周期(0.13%)
	早産	151周期 (19.28%)		奇形中絶	2 周期(0.26%)
	早産、死産	5周期 (0.64%)			
多胎妊娠について	977児	単胎	600 例 (76.2%)	600 児	
		双胎	172 例 (22.0%)	344 児	
		品胎	11 例 (1.4%)	33 児	
低体重児	291児	(29.8%)			
異常児	97児	(9.9%)	うち奇形を含む主な異常	42児 (4.3%)	

セント・ルカ産婦人科　1年のあゆみ

(2003.4.1～2004.3.31)

学会発表・・・・・・・・・・・・・・・　36題

院長	3
看護部	13
研究室	19
情報処理室	1

学会講演会参加・・・・・・・・・・・　27回

研修会・・・・・・・・・・・・・・・・　7回

論文・・・・・・・・・・・・・・・・・　17回

著書（共著）　・・・・・・・・・・・　6回

主催講演・・・・・・・・・・・・・・・　6回

セント・ルカセミナー	4
『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座	2

院長講演・・・・・・・・・・・・・・・　3回

不妊カウンセラー活動・・・・・・・・　26回

体外受精教室	11	総参加人数 381名
ガーネットサークル	4	総参加人数 20名
オリーブの会	11	総参加人数 61名

院内講習会参加・・・・・・・・・・・　5回

高度生殖医療技術研究所所長
荒木康久先生ご来院・ご指導　2

広島大学大学院生物圏科学研究所助手
島田昌之先生ご来院・ご指導　3

不妊治療の保険適用に向けての活動・・　2回

行事一覧(1)

2003　4. 1　新職員　恵良郁絵さん（看護部）

4. 4　第 16 回大分市医師会産婦人科・内分泌・不妊・代謝懇話会（大分）
参加＜油布、佐藤順、梅田、越名、渡邊、佐藤晶、佐藤千、城戸、平井、大津、熊迫、公文、長木、松元、實﨑、恵良、越光、江藤、品矢、指山、上野、院長＞

4. 5　第 14 回『赤ちゃん　～今ならきっと授かる～』講座
(大分・トキハ会館 6F　さくらの間)　参加者 54 名
講師＜院長、おがた泌尿器科医院　緒方俊一先生＞　参加＜油布、佐藤順、越名、佐藤晶、平井、江藤、恵良、赤嶺、篠田、品矢、指山、上野＞

4. 5　セント・ルカ産婦人科&メディテック・ルカ合同お花見（大分・裏川公園）

4.12　第 16 回オリーブの会　参加者 7 名

4.13　第 55 回日本産婦人科学会（福岡）　参加＜佐藤千、大津、院長＞

4.18　日本哺乳動物卵子学会認定 生殖補助医療胚培養士資格認定試験
受験＜佐藤晶、佐藤千＞

4.19　第 73 回体外受精教室　参加者 33 名　参加＜油布、大津、越光、江藤、恵良、関＞

4.21　ISO9001 コンサルタント来院

4.27　情報処理担当者会（大分）　参加＜油布、佐藤順＞

4.27　第 60 回日本不妊学会九州支部会（福岡）
発表＜公文、大津、松元、二宮、上野＞　参加＜熊迫、院長＞
「マウス前核期胚におけるストローを用いたガラス化保存法の検討」（公文麻美）
「体外培養期間と流産組織染色体異常の関係」（大津英子）
「不妊治療で妊娠に至った患者への質問紙調査
－心の支えに関する検討－」（松本恵利子）
「不妊治療で妊娠困難な 40 歳以上の心理ケアのあり方
－サポート・グループの取り組みについて－」（二宮睦）
「サポート・グループ参加が不妊症患者の
心理的ストレスに及ぼす効果について」（上野桂子）

4.28　高度生殖医療技術研究所　所長　荒木康久先生ご来院・ご指導

5.13　大分県立看護科学大学　教授 宮﨑文子先生、講師 小西清美先生　ご来院

5.17　44 回日本哺乳動物卵子学会（東京）　参加＜佐藤晶、佐藤千、院長＞

5.24　第 74 回体外受精教室　参加者 47 名　参加＜佐藤順、平井、恵良、松元、関＞

5.24　第 18 回ガーネットサークル　OG 1 名、参加者 7 名

6. 2　新職員　足立直美さん（看護部）

6. 3　ISO9001 コンサルタント来院（当院 Meeting 参加）

6. 8　日本生殖医療標準化機関(JISART)キックオフミーティング（東京）
参加＜平井、柴田、院長＞

6.12　第 3 回 ARMT フォーラム（東京）　発表＜公文＞　参加＜佐藤千、院長＞
「安全性を考慮した前核期胚におけるガラス化保存法」（公文麻美）

行事一覧(2)

6.14　第17回オリーブの会　参加者 4名
6.18　Dr. Douglas M. Saunders ご来院
6.21　第15回大分内視鏡下外科手術研究会　発表＜院長＞　参加＜越光、品矢＞
「当院の腹腔鏡下子宮外妊娠手術の検討」

6.24　第81回大分周産期研究会　発表＜大津＞　参加＜工藤由、梅田、越名、渡邉、城戸、公文、平井、熊迫、長木、實﨑、松元、関、恵良、江藤、越光、工藤い、品矢、柴田、指山、上野、院長＞
「初期流産と胎児染色体異常の関係」(大津英子)

6.29　The 19th Annual Meeting of the European Society of Human Reproduction and Embryology (SPAIN　Madrid)　発表＜院長＞　参加＜長木、佐藤晶＞
「Efficacy of Hatching Stage Embryo Transfer in IVF-ET」(院長)

6.29　職員旅行（ハウステンボス組）
参加＜工藤由、松元、関、赤嶺、二宮、品矢、上野＞
7. 5　第75回体外受精教室　参加者 37名
参加＜佐藤順、平井、大津、足立、恵良、篠田、関＞
7. 6　日本産婦人科学会大分支部会（大分）　発表＜院長＞
「当院における10年間の妊娠成績について」

7.12　第15回『赤ちゃん　～今ならきっと授かる～』講座
（大分・トキハ会館6F　さくらの間）参加者 53名
講師＜院長、おがた泌尿器科医院　緒方俊一先生＞　参加＜佐藤順、工藤由、渡邉、公文、熊迫、足立、恵良、江藤、越光、篠田、松元、赤嶺、品矢、指山、上野＞
7.14　片岡レディースクリニック（熊本）大迫亮子先生　研修のためご来院
7.16　第162回大分市医師会産婦人科臨床検討会　参加＜院長＞
7.19　第76回体外受精教室　参加者 27名　参加＜工藤由、熊迫、足立、恵良、関＞
7.19　第1回第2期オリーブの会始動　参加者 5名
7.24　大分県立看護科学大学　特別講義　公演＜院長＞　参加＜工藤由、實﨑、指山、工藤い、足立、恵良、熊迫、城戸＞
「大分県立看護科学大学不妊症講座」(院長)

7.25　第43回日本産科婦人科内視鏡学会（京都）　参加＜院長＞
7.26　生殖バイオロジー東京シンポジウム（東京）　参加＜公文、熊迫、院長＞
7.28　片岡レディースクリニック（熊本）野中由香理先生　研修のためご来院
8. 1　新職員　清水幸美さん（看護部）
8.09　安田精神保健夏期講座4（東京）　参加＜城戸、長木、實﨑、品矢、指山、院長＞

行事一覧(3)

8.16　The Training Program for Nurses in Bourn Hall Clinic（U.K.）参加＜柴田＞
8.16　第77回体外受精教室　参加者 18名　参加＜佐藤順、大津、清水、足立、関＞
8.23　第10回セント･ルカセミナー懇親会（別府）
8.24　第10回セント・ルカセミナー（セント・ルカ多目的ホール）
講師　年森　清隆　先生＜千葉大学大学院形態形成学教授＞
「異常精子症と卵子活性化の関係」
講師　森　崇英　先生＜醍醐渡辺クリニック、京都大学名誉教授＞
「着床の仕組みにホルモンと免疫はどのように関与しているか」
講師　品川　信良　先生＜弘前大学名誉教授＞
「助妊・助産・助生・助死」
講師　当院で治療経験のある元患者さん（Mさん、Hさん）
コメンテーター　宮川　勇生先生＜大分大学医学部　教授＞
8.25　高度生殖医療技術研究所　所長　荒木康久先生ご来院・ご指導
8.30　第18回オリーブの会　参加者 4名
8.30　第19回ガーネットサークル　OG 1名、参加者 5名
9. 6　第16回日本心理医療諸学会連合大会　参加＜上野、院長＞
9. 7　日本生殖医療臨床心理カウンセリング研究会　参加＜上野、院長＞
9. 6　第2回第2期オリーブの会　参加者 6名
9. 7　第3回 ARMT 実技講習会（東京）　参加＜佐藤順、城戸、平井＞
9.15　京都大学名誉教授 森崇英教授、広島大学大学院生物圏科学研究科助手
島田昌之先生と研究打ち合わせ（広島）参加＜佐藤千＞
9.27　第78回体外受精教室　参加者 28名　参加＜油布、佐藤千、清水、恵良、原井＞
10. 1　第48日本不妊学会（東京）
発表＜工藤由、佐藤千、大津、二宮、品矢、上野＞　参加＜院長＞
「生殖医療領域におけるデータベース管理の重要性」（工藤由香）
「ヒト妊娠初期脱落膜における IL-8,MCP-1 の産生：
正常妊娠と自然流産の比較」（佐藤千賀子）
「体外受精による体外培養期間と流産組織染色体異常の関係」（大津英子）
「不妊治療で妊娠困難な40歳以上の心理ケアのあり方
-サポート・グループの取り組みについて-」（二宮　睦）
「不妊治療患者における経済面の調査」（品矢悦子）
「サポート・グループ参加が不妊症患者の心理的ストレスに及ぼす効果について
- POMS 得点の変化より-」（上野桂子）

10. 3　第21回日本受精着床学会（東京）発表＜公文麻美、熊迫陽子＞　参加＜院長＞
「ストローを用いた安全な前核期胚 Vitrification の検討」（公文麻美）
「ストローを用いた安全な前核期胚 Vitrification の臨床応用」（熊迫陽子）
（世界体外受精記念賞受賞演題）

10. 1　第 48 回日本不妊学会／第 21 回日本受精着床学会ブース展示（東京）
＜工藤由、油布＞
10. 3　第 21 回日本受精着床学会公開講座「不妊治療の保険適用について考える」（東京）
「保険適用を考える～医療者の立場から～」パネリスト＜院長＞
10.10　広島大学大学院生物圏科学研究科助手　島田昌之先生ご来院・ご指導
10.11　第 16 回『赤ちゃん　～今ならきっと授かる～』講座
（大分・トキハ会館 6 F　さくらの間）参加者 39 名
講師＜院長、おがた泌尿器科医院　緒方俊一先生＞　参加＜油布、工藤由、梅田、佐藤晶、清水、江藤、篠田、赤嶺、指山、上野＞
10.11　世界体外受精記念賞受賞祝賀会（大分）
10.17　第 18 回大分市医師会産婦人科・内分泌・不妊・代謝懇話会（大分）
参加＜油布、佐藤、梅田、城戸、平井、大津、熊迫、長木、實﨑、足立、松元、赤嶺、恵良、江藤、原井、指山、院長＞
10.18　第 79 回体外受精教室　参加者 35 名　参加＜佐藤順、佐藤千、関、品矢＞
10.18　第 3 回第 2 期オリーブの会　参加者 3 名
10.19　職員旅行（沖縄組　第 1 陣）　参加＜油布、梅田、矢野、後藤、城戸、公文、平井、熊迫、恵良、柴田、指山、院長＞
10.23　5th World Congress of A PART（東京）　参加＜院長＞
発表＜城戸、大津、柴田＞
「The efficacy of surgical sperm retrieval and ICSI for male factor」（城戸京子）
「The developmental potential and the chromosomal constitution of embryos derived from larger single pronuclei of human zygotes used in vitro fertilization」（大津英子）
「Attitudes towards the donation and the surrogacy of infertility patients in Japan」（柴田令子）

10.23　職員旅行（沖縄組　第 2 陣）　参加＜佐藤順、渡邉、佐藤千、佐藤晶、長木、江藤、篠田、工藤い、原井＞
10.25　第 19 回オリーブの会　参加者 4 名
11. 1　第 6 回 IVF 研究会（大阪）　参加＜佐藤千、平井、大津、院長＞
11. 5　全国の衆議院議員選挙出馬者へ不妊治療の保険適用についてのアンケート調査実施(1,033 通)
11.13　保健所立入り検査
11.13　広島大学において研修　参加＜佐藤千、大津、熊迫＞
11.15　第 80 回体外受精教室　参加者 17 名　参加＜佐藤順、佐藤千、足立、関＞
11.15　第 4 回第 2 期オリーブの会　参加者 5 名

11.20　第34回大分市医師会医学会（大分）　発表＜大津、熊迫、品矢、柴田＞
「体外受精による体外培養期間と流産組織染色体異常の関係」（大津英子）
「ストローを用いた安全な前核期胚 vitrification 法について」（熊迫陽子）
「不妊治療患者における経済面の調査」（品矢悦子）
「不妊患者から見た非配偶者間生殖補助医療」（柴田令子）

11.22　遺伝性疾患に関する出生前診断研究会（福岡）　参加＜佐藤晶、公文、大津＞
11.29　第20回ガーネットサークル　OG 1名、参加者 4名
11.29　SOPHIA　ART　GROUP 研究会（神奈川）　講演＜院長＞
「不妊患者へのサポート」

12. 2　防災訓練
12. 6　JISART 定期会合（沖縄）　参加＜院長＞
12. 5　広島大学大学院生物圏科学研究科助手　島田昌之先生ご来院・ご指導
12. 8　夜間防災訓練（緊急連絡網訓練）
12.14　講演会「親・子ども・提供者の視点から考える AID」（東京）
参加＜品矢、上野、院長＞
12.20　第81回体外受精教室　参加者 17名　参加＜油布、佐藤千、篠田、関＞
12.20　セント・ルカ忘年会（トキハ会館）
12.25　クリスマス会（セント・ルカ多目的ホール）

2004　1. 5　新年会（セント・ルカ多目的ホール）
1.11　日本生殖医療心理カウンセリング研究会世話人会（東京）　参加＜上野、院長＞
1.17　第17回『赤ちゃん　～今ならきっと授かる～』講座（大分・ホテルくれべ大分）
参加者 32名　講師＜院長＞　参加＜佐藤順、工藤由、越名、佐藤晶、江藤、篠田、赤嶺、原井、指山＞
1.24　第82回体外受精教室　参加者 59名　参加＜佐藤順、熊迫、足立、関、指山＞
1.24　第1回第1期・第2期合同オリーブの会　参加者 10名
1.31　日研シンポジウム（北海道）参加＜院長＞
2. 3　新職員　河野絢子さん（看護部）
2.15　第1回日本生殖医療心理カウンセリング研究会学術集会（東京）　発表＜上野＞
参加＜渡邉、長木、柴田、指山、院長＞
ワークショップ「私のカウンセリング」
座長＜院長、津田塾大学教授　金城清子先生＞
「私のカウンセリング」（セント・ルカ産婦人科　上野桂子先生）
2.21　第6回第2期オリーブの会　参加者 4名

2.24　第83回大分周産期研究会（大分）　発表＜江藤＞
参加＜佐藤順、工藤由、梅田、渡邉、大津、　足立、篠田、松元、関、二宮、赤嶺、斉高、河野、恵良、越光、品矢、原井、柴田、指山、上野、院長＞
「不妊患者から見た非配偶者間生殖補助医療」（江藤貴美）

2.28　第83回体外受精教室　参加者 46名　参加＜公文、河野、足立、関＞
2.28　第21回ガーネットサークル　OG 1名、参加者 4名
3. 1　新職員　工藤美子さん（看護部）
3.07　第11回セント・ルカセミナー
講師　Jacky Boivin　先生＜School of Psychology, Cardiff University, U.K.＞
「A systematic review of psychosocial interventions in infertility」
座長　久保　春海 先生＜東邦大学医学部教授＞
講師　久保　春海 先生＜東邦大学医学部教授＞
「女性生殖機能障害における心理要因の医療人類学的考察」
座長　宮川　勇生 先生＜大分大学医学部教授＞
講師　平山　史朗 先生＜東京 HART クリニック　臨床心理士＞
「日本における生殖心理カウンセリングの現状と課題」
講師　上野　桂子 先生＜セント・ルカ産婦人科　心理士＞
「当院の取組み　わたしのカウンセリング」
講師　当院で治療経験のある元患者さん　M.M さん、M.N さん

3. 8　The 4th Conference of the Pacific Rim Society for Fertility and Sterility
（沖縄・万国津梁館）発表＜公文、平井、實﨑、上野＞　参加＜院長＞
「Successful pregnancy following safe vitrification method using a straw container to prevent infections in pronuclear embryos」（公文麻美）
「Transfer of embryos vitrified and thawed under the logics of synchronicity between the embryo development and the implantation window」（平井香里）
「How can we support infertility couples?」（實﨑美奈）
「Attitudes towards the donation and the surrogacy of infertility patients」（上野桂子）
SESSION 9「Reproductive Psychiatry」　Chair＜Dr.Takafumi Utsunomiya, Dr.Jacky Boivin School of Psychology, Cardiff University, U.K.＞
「Does stress have an adverse effect on IVF outcome?」(Dr.Jacky Boivin, U.K.)

3. 8　The 4th Conference of the Pacific Rim Society for Fertility and Sterility ブース展示（沖縄）　参加＜佐藤順、工藤由＞
3.13　日本生殖医療標準化機関(JISART)ミーティング（東京）　参加＜院長＞
3.15　Microsoft SECURE SYSTEM Training for IT Pro #1（大分）　参加＜工藤由＞

行事一覧(7)

3.22　広島大学大学院生物圏科学研究科助手　島田昌之先生ご来院・ご指導
3.26　平成15年度医療安全研修会（大分県医師会館）参加＜長木、柴田、指山＞
3.27　第2回第1期・第2期合同オリーブの会　参加者 9名
3.27　衆議院議員へ不妊治療の保険適用についてのアンケート調査実施(478通)
3.27　第84回体外受精教室　参加者 17名　参加＜城戸、工藤美、河野、足立、指山＞
3.27　セント・ルカ産婦人科＆メディテック・ルカ合同お花見（大分・裏川公園）
3.28　第2回大谷産婦人科セミナー（神戸）参加＜佐藤晶、大津＞
3.29　古賀総合病院(宮崎)長山由佳先生　院内見学のためご来院
4. 1　新職員　平松里美さん（情報処理室）、那須恵さん（研究室）、
門屋英子さん（看護部）
4. 1　参議院議員へ不妊治療の保険適用についてのアンケート調査実施(246通)
4. 2　第19回大分市医師会産婦人科・内分泌・不妊・代謝懇話会（大分）
参加＜平松、佐藤順、梅田、越名、渡邊、佐藤千、佐藤晶、城戸、那須、大津、
熊迫、長木、松元、篠田、河野、恵良、工藤い、越光、江藤、柴田、指山＞
「免疫の立場からみた習慣流産」（富山医科大学産科婦人科　齋藤滋先生）
4. 5　高度生殖医療技術研究所　所長　荒木康久先生ご来院・ご指導
4. 8　EOG環境測定　X線漏洩検査
4.18　第61回日本不妊学会九州支部会　発表＜佐藤千、公文、江藤、上野＞
参加＜院長＞
「高濃度のエストロゲンが存在する卵胞由来ヒト卵子は
高い体外成熟能を有する」（佐藤千賀子）
「体外受精における非受精卵の解析」（公文麻美）
「ART周期の各時期におけるストレス度の変化」（江藤貴美）
「ART周期における不妊症患者の心理的ストレスと
その影響要因について」（上野桂子）

4.19　Microsoft SECURE SYSTEM Training for IT Pro #2（大分）
参加＜佐藤順、工藤由＞
4.23　第3回不妊治療の保険適用署名運動　不妊治療施行施設585施設にアンケート送付

4.24　第85回体外受精教室　参加者 42名
参加＜平松、佐藤順、那須、門屋、河野、工藤美、斉高、関＞

5. 8　第18回『赤ちゃん　～今ならきっと授かる～』講座（大分・トキハ会館）
参加者　72名　講師＜院長、おがた泌尿器科医院　緒方俊一先生＞
参加＜平松、佐藤順、工藤由、渡邊、那須、平井、篠田、門屋、
工藤美、河野、恵良、江藤、赤嶺、指山、上野＞

5.15　第45回日本哺乳動物卵子学会（滋賀）
発表＜佐藤千、公文、熊迫＞　参加＜院長＞
「高濃度のエストロゲンが存在する卵胞由来ヒト卵子は
高い体外成熟能を有する」（佐藤千賀子）
「体外受精における非受精卵の前核形成阻害の解析」
（公文麻美　日本哺乳動物卵子学会学術奨励賞受賞演題）
胚培養士セッション「顕微授精の適応について」
座長＜院長、国際医療福祉大学・臨床医学センター　柳田　薫先生＞
「当院のICSI適応基準と妊娠困難例に対する新しい試み」
（セント・ルカ産婦人科　熊迫陽子）

5.20　株式会社HOKS（ISO9001取得企業・大分）見学　参加＜平松、工藤由、梅田、那須、城戸、平井、大津、長木、渡邉、門屋、品矢、原井、柴田、指山＞
5.22　クリーンルーム　ヘパフィルター交換
5.23　The First Postgraduate Course Presented by IICO: "Global Perspectives on Infertility Counseling"（CANADA　Montreal）　参加＜熊迫、上野、院長＞
5.23　IFFS 18th World Congress on Fertility and Sterility（CANADA　Montreal）
発表＜熊迫、上野＞　参加＜院長＞
「Successful pregnancy following a safety vitrification method using a straw container to prevent infections in pronuclear embryos」（熊迫陽子）
「Attitudes towards the donation and the surrogacy of infertility patients in Japan」（上野桂子）
5.28　竹内レディースクリニックにてPGD研修（鹿児島）　参加＜佐藤晶、大津＞
5.29　卵巣に関する国際カンファレンス（東京）　発表＜佐藤千、公文＞　参加＜院長＞
「Human cumulus-oocyte complexes (COCs) recovered from follicles containing high level of E2 have a high in vitro maturational competence.」（佐藤千賀子）
「Analysis of the male/female nuclear characters from unfertilized human oocytes in vitro」（公文麻美）
6. 5　第3回第1期・第2期合同オリーブの会　参加者 6名
6. 5　第86回体外受精教室　参加者 37名
参加＜平松、佐藤順、那須、熊迫、門屋、河野、足立、篠田、関＞
6. 7　第1回ISO9001委員会会議
6. 8　第84回周産期研究会　発表＜恵良郁絵＞　参加＜平松、佐藤順、工藤由、梅田、篠田、松元、門屋、工藤美、赤嶺、恵良、斉高、原井、柴田、上野、院長＞
「治療別出生児の所見」（恵良郁絵）
6. 9　日本哺乳動物卵子学会学術奨励賞受賞祝賀会（大分）
6. 9　高度生殖医療技術研究所　所長　荒木康久先生ご来院・ご指導
6. 9　扶桑薬品工業株式会社　中澤　照喜先生　ご来院・ご指導

行事一覧(9)

6.12　Serono Symposia International 2004（東京）
参加＜江藤、平井、長木、原井、上野、院長＞
SESSION 5「The Embryo」
Chair＜Dr.Takafumi Utsunomiya、Dr.Kaoru Yanagida＞

6.14　JISART　ラボラトリーディレクター研修会（東京）参加＜平井、長木＞
6.14　第2回 ISO9001 委員会会議
6.16　第3回 ISO9001 委員会会議
6.18　医療機関における ISO9001 活用セミナー（東京）　参加者＜梅田、城戸＞
6.19　第1回新患講座　参加者 34名
参加＜平松、佐藤順、那須、長木、篠田、江藤、赤嶺＞
6.19　第22回ガーネットサークル　OG 1名、参加者 5名
6.23　第4回 ISO9001 委員会会議
6.26　第16回大分内視鏡下外科手術研究会　発表＜院長＞
「不妊症を主訴とした開腹術後-2nd-look laparoscopy について」（院長）
6.23　第5回 ISO9001 委員会会議
6.30　第6回 ISO9001 委員会会議
7. 5　第87回体外受精教室　参加者 28名
参加＜那須、佐藤晶、相良、門屋、足立、関＞
7. 5　佐世保共済病院(長崎)新立幸男先生　院内研修のためご来院
7. 5　片岡レディスクリニック(熊本)小牧麻美先生　院内研修のためご来院
7. 9　夜間防災訓練
7.10　第33回女性心身医学会学術集会（栃木）　発表予定＜原井＞　参加予定＜上野＞
「不妊治療で妊娠困難な40歳以上の心理的ケアのあり方
-サポート・グループの取組みについて-」（原井淳子）
7.10　日本生殖医療臨床心理カウンセリング研究会世話人会　参加予定＜院長＞
7.11　九州医師会共同施設協議会（宮崎）　参加予定＜院長＞
7.14　大分看護科学大学　講師予定＜院長＞
「不妊症講座」（院長）
7.18　生殖バイオロジー　東京シンポジウム（東京）
発表予定＜院長＞　参加予定＜公文、平井＞
「安全なストローを用いた2PN胚凍結法と
Implantation Window を考慮した胚融解日変更の効果」（院長）
7.24　第19回『赤ちゃん　～今ならきっと授かる～』講座予定
講師＜院長、おがた泌尿器科医院　緒方俊一先生＞
8.21　第2回新患講座予定
8.28　第88回体外受精教室予定
9. 1　第49回日本不妊学会（北海道）発表予定＜江藤、上野＞　参加予定＜院長＞
「ART 周期の各時期におけるストレス度の変化」（江藤貴美）
「ART 周期における不妊症患者の心理的ストレスと
その影響要因について」（上野桂子）

9.1　第22回日本受精着床学会（北海道）

発表予定＜佐藤千、公文、平井＞　参加予定＜院長＞

「ヒトIVMにおけるプロゲステロン添加は

卵子成熟と卵丘細胞の膨潤を促進する」（佐藤千賀子）

（世界体外受精記念賞候補演題）

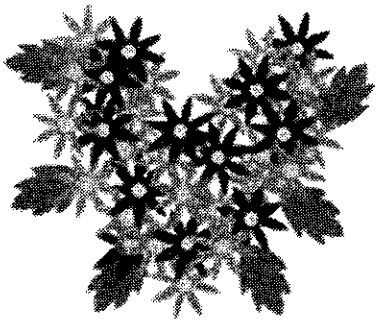
「体外受精における非受精卵の前核形成阻害原因の解析」（公文麻美）

「ヒト胚における前核期形態評価の有用性」（平井香里）

受精・胚発育Ⅲ　座長予定＜院長＞

9.1　第49回日本不妊学会／第22回日本受精着床学会ブース展示予定（北海道）

＜平松、工藤由＞



論文一覧(1)

2003　「体外受精反復無効例に対する hatching stage 胚移植の試み」(長木美幸)
日本不妊学会雑誌　48:27-31, 2003

「不妊因子が卵管上皮細胞の培養に与える影響」(熊迫陽子)
日本不妊学会雑誌　48:41-47, 2003

「感染防止のためストローを用いた前核期胚 vitrification 法による妊娠成功について」
(熊迫陽子)　臨床婦人科産科　Vol.57 No.12 1576-1579, 2003

「Successful pregnancy after the vitrification of zygotes using commercial vitrification solutions and conventional straw to protect from infections in the liquid of nitorogen」(熊迫陽子)　J Assist Reprod Genet (in press)

「新しく開発された培養液 HFF99 のヒト体外受精への臨床応用」(平井香里)
日本不妊学会雑誌　48:17-22, 2003

「Implantation window を考慮した Vitrification 凍結融解法の検討」(平井香里)
日本受精着床学会雑誌　20:75-77, 2003

「A Vitrification Method by Means of a Straw to Prevent Infections in Mouse Pronuclear Embryos」(公文麻美)
Journal of Mammalian Ova Research　Vol.20 No.3 124-128 October 1, 2003

「感染に対して安全な vitrification 法のマウス前核期胚における検討」(公文麻美)
臨床婦人科産科 57:1571-1575, 2003

「男性因子以外の不妊原因における ICSI の有用性」(城戸京子)
日本受精着床学会雑誌　20:156-158, 2003

「体外受精において生じた大型 1 前核を持つ異常受精胚(1PN)の胚盤胞到達率とその染色体核型について」(佐藤晶子)　日本不妊学会雑誌　48:33-39, 2003

「不妊症患者に対するサポートのあり方」(實﨑美奈)
日本不妊学会雑誌　48:27-107-111, 2003

論文一覧(2)

2004 「A Prospective, Randomized Study: Day-3 versus Hatching Blastocyst Stage.」(院長)
Hum.Reprod. Vol.19, No.7 pp1598-1603, 2004

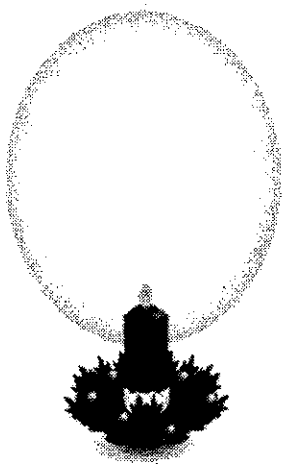
「The developmental potential and the chromosomal constitution of embryos derived from larger single pronuclei of human zygotes used in invitro fertilization」
(大津英子) Fertil.Steril. Vol.81, No.3 pp723-724, March 2004

「How many times should we try ART?」(院長) Hum.Reprod. (投稿中)

「Transfer of Embryos Vitrified and Thawed by Ascertaining Synchronicity between Embryonic Development and Endometrial Maturity to Determine the implantation Window.」(院長) Hum.Reprod. (投稿中)

ヨハネによる福音書 10章 14-15節

わたしは良い羊飼いである。
わたしは自分の羊を知っており、
羊もわたしを知っている。
それは、父がわたしを知っておられ、
わたしが父を知っているのと同じである。
わたしは羊のために命を捨てる。



著書(共著)一覧

2003　「分割期胚移植と胚盤胞期胚移植」(院長)　『生殖補助医療マニュアル』(医学の世界社)

「不妊治療の保険適用について」(院長)　『セミナー医療と社会』(セミナー医療と社会)

「胚の凍結保存」(院長)　『産婦人科治療 特集 必携 今日の生殖医療』(永井書店)

「2PN 胚・胚盤胞期胚の安全な Vitrification 法と胚移植」(院長)
『生殖医療のコツと落とし穴』(中山書店)

「不妊患者への精神的サポート・カウンセリングの方法」(院長)
『生殖医療のコツと落とし穴』(中山書店)

2004　「培養液」(院長)　『生命誕生に向けて-生殖補助医療胚培養士講習会テキスト 』
(日本哺乳動物卵子学会)

「生殖補助医療(ART)と経済的負担」(院長)
『産婦人科の世界 56 巻 8 号　特集/生殖医療が直面する倫理課題』(医学の世界社)

「胚移植の方法(新鮮胚，凍結胚)」(院長)
『ART 必須技術マニュアル』(医歯薬出版株式会社)

「卵子・胚凍結-急速凍結法-Straw②」(熊迫陽子)
『ART 必須技術マニュアル』(医歯薬出版株式会社)

セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明

セント・ルカセミナー　開催頻度：1回／1年

セント・ルカ産婦人科開院記念行事として、毎年8月に行っている。
国内外から、著名な先生方をお招きして、当院多目的ホールにてシンポジウムを行っている。
セミナー前日には、懇親会も行われ、医師、エンブリオロジストの貴重な情報交換の場として役立っている。セミナー開催にあたって、企画・立案・運営までを、全て当院で行っている。

『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座　開催頻度：1回／3ヶ月

（不妊検査・治療についての説明会。主として初診間もない患者さんが対象）

2000年までは、2年毎の開催であったが、広く不妊治療を知ってもらう目的で、2001年からは、3ヶ月に1回、市内のホテルで行い、参加者の方が、ゆったり、リラックスしていただけるように、コーヒーとケーキを用意している。パソコンプロジェクターを使用し2時間程詳しく院長がお話をした後、不妊治療に協力的な泌尿器科の先生に、男性不妊の治療説明などをしていただき、次に当院OG（当院で治療後赤ちゃんを授かり出産へと至った方）のお話を1時間程聞く事ができる。OG 自身の治療歴から始まり、治療中に立ちはだかる大きな壁をどうやって越えたのか、心の中で日々大きくなる悩みやストレスに対しての対処の仕方など、患者さんの気持ちで参加者にお話ができるため好評である。

ガーネットサークル　開催頻度：1回／3ヶ月

（ART中の患者さんに対するART経験者によるアドバイスの会）

当院で10回前後体外受精を行い、出産へと至った方にお願いをして、現在体外受精を受けられている患者さん、これから受けられる患者さんとの交流の場を設けている。体外受精に対する精神的なストレスの発散場所として、経験者の話を聞く事により、患者さんの視野を広げ、悩んでいるのは自分ひとりではないのだということの再認識もできる貴重な会である。
ガーネットサークルの由来は、ガーネットの和名「ざくろ石」からきている。ざくろは風水では子宝に恵まれるという意味を持っているので、全ての患者さんが子宝に恵まれる事を祈って、ガーネットサークルと名づけた。

オリーブの会（第2期）　開催頻度：1回／1ヶ月

（比較的高齢者の患者さんの集い）

治療を進めていく上で、焦りやストレスを感じている不妊患者さんが多い。その上、治療に対するストレスだけでなく年齢的な焦りと直面した患者さんは近年増加している。このような患者さんへのサポートの必要性を感じ立ち上げられた会である。対象年齢を40歳以上とし、心理士と看護師を交えてお茶を楽しみながらリラックスした自由な話し合いの場を設けている。

体外受精教室　開催頻度：1回／1ヶ月（毎月第4土曜日）

（ARTにすすむ患者さんへの説明会）

初めて体外受精を受けられる患者さん向けに、体外受精治療の過程や、体外受精前後の体の変化など、院長が2時間かけて分かりやすく説明している。パソコンプロジェクターを使用し、写真や画像を多用しているので、より身近に、より分かり易い内容となっている。ほとんどの患者さんがご夫婦で参加されるため、夫婦とも同じラインで体外受精について考える事ができ、その後の治療にも役立っている。

新患教室　開催頻度：1回／1ヶ月

（主として初診から1ヶ月以内の患者さんが対象）

2004年5月までは、3ヶ月に1度市内のホテルで行っていた「赤ちゃん～今ならきっと授かる～」講座を、さらに気軽に参加でき、広く不妊治療を知ってもらうという目的で

2004年6月からは毎月開催している。当院の多目的ホールにて院長が、3時間程初診時の検査から体外受精までを詳しく説明している。早い時期に夫婦で参加する為(30～40名)、治療の理解が深まり、その後の治療にも役立っている。

新患オリエンテーション　開催頻度：初診時

新患さんの検査、診察終了後に主任クラスの看護婦が行っている。1時間程かけて、写真や資料を使い患者さんへ病状の説明、今後の治療のすすみ方や費用面での説明をしている。また、診察時に患者さんが言えなかった訴えを受け止め、心配していることの相談などを行っている。

なんでも相談　開催頻度：毎週土曜日午後（予約制）

（主任クラスの看護師による相談）

不妊治療に従事する者として、不妊という悩みを抱えた患者さんを支える為に教育された看護スタッフにより行われている。患者さんが抱えているストレスや悩み、治療についての質問など、なんでも相談できる場として設けている。

院長相談　開催頻度：毎週月・水・金の18:00～（予約制）

普段の診療で聞けなかった事や、なんとなく疑問に思っていることを、他の患者さんを気にすることなく、ゆっくりと院長に相談できる。理解できるまで、分かりやすく説明が聞けるので、患者さんに好評である。

心理専門相談室　開催頻度：毎週火・土の午前中（予約制）

2001年より、専門の心理士による、きめ細やかな相談業務が行われている。患者さんが抱える深刻な悩みを、幅広く受け止められるよう努めている。今後、さらなる需要が求められるであろう。

院内研修　開催頻度：毎週火曜日午後

毎週火曜日の午後、職員全員を集めての院内研修およびミーティングを行っている。
研究室・検査室からは、研究結果の発表、海外論文詳読、各部署より医療過誤につながりうる可能性のミスを報告し、今後の為に協議する「ハッとしたこと」報告、また、その週に治療を受ける患者さんについて、治療方針を話し合うなど、4時間程のミーティングを行っている。
このミーティングにより、全職員の意思統一が図れ、患者さんのケアにも役立っている。ミーティングの最後には「一人一言」の時間をもうけ、個人個人の考えを述べる機会を作っている。

ラボミーティング　開催頻度：毎朝20分程

研究室・検査室の職員と院長とで培養中の胚の観察結果報告や、当日行われる採卵予定患者さんの検査結果報告、胚移植予定者報告を行っている。また、個人が担当している研究の途中経過報告や新しい研究の提案など活発な意見交換も行われている。

その他　開催頻度：随時

手術前説明（院長）

手術内容と進め方について説明を行う。

手術後説明（院長）

手術時のビデオを見ながら、手術や予後の説明を行う。

ART ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（看護部）

体外受精に入る前の患者さんに体外受精の説明を行う。

ART 結果説明(1)（ラボ専任スタッフ）

体外受精・胚移植直後に、培養した胚の説明等を行う。

ART 結果説明(2)（看護部）

妊娠反応のチェック時に、結果説明と共に行う。

ART 結果説明(3)（ラボ専任スタッフ）

体外受精後、移植できなかった場合にその理由等を説明する。

体外受精に関する相談（ラボ専任スタッフ）

卵子・精子・胚に関する質問を随時受け付けている。

スタッフ配置

院　長　　宇津宮隆史

研究室・検査室

長木美幸、熊迫陽子、大津英子、平井香里、公文麻美
城戸京子、佐藤千賀子、佐藤晶子、那須　恵

看護部

指山実千代、柴田令子、原井淳子、品矢悦子、赤嶺佳枝、越光直子、
江藤貴美、恵良郁絵、河野絢子、工藤美子、門屋英子、相良聖子、
斉高美穂、二宮　睦、関こずえ、松元恵利子、篠田多加子、足立直美

心理専門相談室

上野桂子（心理士）

総務部

宇津宮富美子

事務部

渡邉佳代、越名久美、梅田麻衣

情報処理室

工藤由香、佐藤順子、平松里美

厨房

後藤江美子、矢野千恵美、首藤清子

病院概要

名　　称	医療法人セント・ルカ　セント・ルカ産婦人科 セント・ルカ生殖医療研究所
開設年月日	1992年6月3日
住　　所	〒870-0947 大分市津守富岡5組 TEL　097-568-6060 FAX　097-568-6299 E-mail st-luke@oct-net.ne.jp http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke/ http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke/imode (携帯電話用)
許可病床数	14床
職　員　数	総数38名

常勤医	1名	総務部	1名（兼任）
研究室	6名	事務部	3名
検査室	3名	情報処理室	3名
看護婦	11名	調理士	3名
准看護婦	7名	栄養士	1名
心理士	1名		

診療時間	月、水、金：　9:00～12:00 17:00～19:00（要予約） 火、木、土：　9:00～12:00 （祭日を除く）

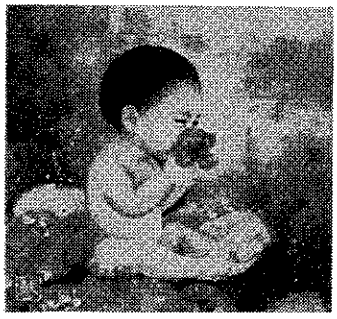
＜本年報の集計もNEW Sarah Baseを用いました＞

臨床データ管理・医学統計解析ソフト
さらに機能が充実しました。

NEW

Sarah Base

Medical & Statistical Data Base Ver. 2.0
Windows98/Me/2000/XP



データ蓄積・集計になくてはならない偉大な味方のSarahBaseがさらにパワーアップしました。タッチパネルを導入することにより、データが発生した場所で初心者でも簡単にデータ蓄積ができ、記帳する手間と時間を節約できます。さらに、各機能を強化することにより、ラボスタッフの強力な味方になりました。詳細はお問い合わせください。

きっとご満足いただけるはずです。

・製品構成　SarahBase診療支援/データ排出/統計解析/項目管理作成ツール/
入力画面作成ツール/検査結果報告取込(オプション)/
レセコン頭書情報取込(オプション) レセコン診療情報取込(オプション)
生殖医学臨床実施成績一覧表の集計・印刷(オプション) /
新機能:データ入力チェック・簡易集計等のマクロ言語ツール(仮称)
備品類メンテナンスアラーム(オプション)
・動作環境CPU:Pentium II 350MHz以上(推奨Pentium III 450MHzクラス以上)
OS:Windows 98/Me/2000/XP メモリ:128MB以上 ハードディスク空き容量: 100MB以上

(有)メディテック・ルカ　〒870-0947 大分市津守富岡5組セント・ルカ産婦人科内
TEL/FAX (097)554-8567
E-mail mt-luke@oct-net.ne.jp
http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke

2003年度年報

2004年８月　発行
発　行：医療法人セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所
編　集：宇津宮　隆史
〒870-0947　大分市津守富岡５組
Tel 097-568-6060
Fax 097-568-6299
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp
http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke/